

2023 年度第 2 回血液検査機器技術委員会 議事録

1. 日時:2023 年 10 月 7 日(土) 9 時 00 分～9 時 30 分
2. 場所:パシフィコ横浜(511+512 号室:会議センター5F)
3. 出席予定者(敬称略)
新保、下村、井上、稲葉、高橋、金子、増田、常名、菅原、内藤、大川、今田、中西、松田、徳永、林、小野、春日、藤野、長濱、齊藤、鈴木、中山、黒川、尾藤、大泉、田中、四ノ宮
4. 欠席者(敬称略)
遠見、朝比奈
5. 議題
 - 1) 報告事項
 - (1) 2023 年度第 1 回血液検査機器技術委員会議事録確認
議事録に記載した委員の氏名に誤字があり、お詫びの上、訂正する
(新保委員長)
誤:黒川 千佳子委員→正:黒川 智佳子委員
 - (2) 委員交代
坂井 均委員→小野 洋一委員(株式会社エイアンドティー)

申請中:尾藤 佳奈委員→藤岡 貴委員(アイ・エル・ジャパン株式会社)
→10 月 6 日(木)の理事会にて承認済み(増田委員)
 - (3) 第 13 回血液検査機器技術セミナーについて
 - ① テーマ:「血球計数装置の実運用」-再検基準を中心に-
 - ② 担 当:朝比奈委員、大川委員
 - ③ 日 時:2023 年 10 月 8 日(日)9:00～11:10(130 分)
 - ④ 会 場:パシフィコ横浜第 2 会場/501 号室(5F)
 - ⑤ 定 員:334 名(事前登録不要)
 - ⑥ 参加証明書は現地参加者のみ配布(200 部準備)
 - ⑦ 参加名簿は今回から無し(会場内でおおよその人数を数えることで代用)
→⑥、⑦より受付は参加証明書の配布のみとなるため 2、3 名で行う。例年より受付の人員が必要ないので、委員もなるべく最初からセミナーへ参加していただきたい。
 - ⑧ 内容:各メーカーの装置を使用している技師が発表

《演者》

1. シスメックス社: 今田 昌秀 (川崎医科大学附属病院)
2. ベックマン・コールター社: 安藤 秀実氏 (日本大学病院)
3. シーメンス社: 岡根谷 和美 (静岡赤十字病院)
4. アボットジャパン社: 武藤 健太 (市立釧路総合病院)
5. 堀場製作所社: 松本 理 (柏市立柏病院)

《進行》総時間 130 分

1. ユーザー発表: 20 分×5 施設 (100 分)
2. 総合討論 30 分 (質疑応答はまとめて、総合討論に回す)

《発表内容》

基本的な原理についてもユーザー発表者に説明してもらい、その上で再
検基準について話を進めてもらう。

(4) シンポジウム 2

- ① テーマ: 「凝固検査の課題と今後の展開」
- ② 座長: 金子委員、井上委員
- ③ 2023 年 10 月 6 日 (金) 13:00~14:30
- ④ パンフィコ横浜第 1 会場 / 503 号室 (5F)
- ⑤ 定員 426 名
- ⑥ 内容

1. 凝固検査における Turnaround time についての進歩と課題

演者: 及川 真依 (札幌医科大学附属病院)

2. 凝固波形を活用した血栓止血分野の新展開

演者: 徳永 尚樹 (川島病院)

3. 抗リン脂質抗体関連検査

演者: 山崎 哲 (聖マリアンナ医科大学病院)

4. アンチトロンビン活性の測定試薬標準化と健常人の基準値設定

演者: 内藤 澄悦 (北海道医療大学病院)

→昨日無事に終了し、平日午後の早い時間にも関わらず、多くの参加がありよ
かった。(新保委員長)

2) 審議事項

- (1) 第 14 回血液検査機器技術セミナーについて

2025 年度検査血液学会の学術集会との兼ね合いから予定していた第 14 回と
第 15 回のテーマを入れ替えることになった。(新保委員長)

日程は決定しているか? (常名委員)

→日程に関しては、おそらく今年度と同様に日曜日の午前中、同じ時間配分であると考えられる。(新保委員長)

資料を基に以下の報告があった。(常名委員)

- ① テーマ:(仮)「ここまで進歩したフローサイトメリー検査」
- ② 担当:稲葉委員、常名委員
- ③ 内容:今年度と同様の時間(130分)で行われることを想定し企画した。
プログラムの時間によって、各講演の講演時間を調整しようと考えている。

講演1(9:00~10:00)

FCM 検査の特徴・最新技術の紹介(各メーカー担当者、各 20 分)

- 1) ベクトン・デッキンソン社
- 2) ベックマン・コールター社
- 3) シスメックス社

→フローサイトメリーの技術は自動血球計数装置にも用いられているが、造血器腫瘍の解析におけるフローサイトメリー検査は、自動化が進んできてはいるものの、手作業が多かった。ここ最近、前処理が様々なメーカーでかなり発達したものが出てきている。そのあたりの紹介を目的としている。

講演2(10:10~10:30)

「検体処理、細胞浮遊液作製の実践」

高橋 千由紀先生(東京大学医学部附属病院検査部)

講演3(10:30~10:50)

「FCM 検査の Gating の重要性」

坪倉 美里先生(国立がん研究センター中央病院臨床検査科)

講演4(10:50~11:10)

「FCM 検査マルチカラー解析」

中西 良太先生(滋賀医科大学医学部附属病院検査部)

→講演 2~4 に関しては、ユーザーからということで考えているが、特定のメーカーのユーザーということではなく、実際に検査を実施している技師からの講演ということで選定を行った。

(常名委員)

→準備を進めてもらい、演者の方で講師派遣・依頼状の必要性がある場合は、委員長名で作成するので連絡をいただきたい。(新保委員長)

→各メーカーはどうか?(常名委員)

→これまではどうだったか?(増田委員)

→これまでも、出張等の申請上必要という連絡があった場合にその都度作成し

ていた。メーカーに対して作成した実績はない。(新保委員長)
→ベクトン・デッキンソン社、ベックマン・コールター社、シスメックス社はいずれも不要であるとの回答であった。(四ノ宮委員、藤野委員、林委員)
→稲葉委員、常名委員でこのまま準備を進めていただければと思う。また、メーカー委員も協力をお願いしたい。急遽1年早くなつたが、よろしく願いしたい。(新保委員長)

(2) 第15回血液検査機器技術セミナーについて

- ① テーマ:「凝固測定装置の特徴と実運用」
- ② 担当:金子委員、井上委員
- ③ 内容:第13回の内容を凝固検査に置き換えて行い、第15回終わりで補冊を作ることを視野に入れる。

→まだ猶予があるので、企画を考えてもらいたい。(新保委員長)

(3) 第16回血液検査機器技術セミナーについて

- ① テーマ:「品質保証(精度管理)について」
- ② 担当:高橋委員、内藤委員
- ③ 内容:ISO 15189だけでなく実際にどのように行っているのかならびには是正の方法についての内容。

→まだ内容は決まっていないと思うので、こちらも徐々に準備をお願いしたい。
(新保委員長)

(4) 学会雑誌の補冊の発刊について

- ① 2020年、2021年、2023年のセミナーで血球計数はまとまると思われ、2024年度には補冊の発刊を予定。
- ② タイトル(仮):「血液検査に役立つ自動血球計数装置の基礎知識と再検方法および症例解析」
- ③ 担当:新保委員長、井上委員、常名委員、メーカー委員(基本的な原理)、今田委員をはじめ2023年のセミナーの演者にも依頼。

→ひな形は新保委員長がある程度用意する。

常名委員の負担が大きくなることが考えられるため、症例はある程度書き方を統一する形で、新保委員長、常名委員、井上委員で割り振る予定。また相談させていただきたい。(新保委員長)

- ④ 2022年、2025年のセミナー内容で凝固の補冊の発刊を予定(タイトル未定)。
- ⑤ 担当:新保委員長、下村委員、菅原委員はじめ2022年のセミナー演者、

金子委員、井上委員はじめ 2025 年のセミナー演者にも依頼。
→セミナーがずれたことで少し先になってしまうが、発刊を考えていきたい。
(新保委員長)

3) その他

- (1) 10 月から指名理事候補ということで、本日の社員総会で承認されれば、血液検査機器技術委員会の担当理事に就任予定で、昨日の理事会から出席させてもらった。(増田委員)
- (2) 明日開催される委員長会議に学術委員会の担当理事として出席予定のため、補冊の発刊の要望については伝える。(増田委員)
- (3) 以前は金曜日に技術セミナーを開催しており、委員長会議と重なることはなかったが、近年、日曜日の午前中にプログラムされている。日曜日の方が多数の参加をいただけて有意義である反面、今後も技術セミナーと委員長会議が同じ時間帯となってしまうことが想定される。今後は、事務局 3 人(委員長、副委員長、事務局補佐)のいずれかが参加するように考えたい。(新保委員長)
- (4) 委員長の任期が 4 年で 2024 年度までとなっている。委員長だけは再任できないがどうするか?(稲葉委員)
→次期委員長を来年の春季セミナーまでに考えたい。
立候補がないため、現委員の中で相談しながら決めたい。(新保委員長)

(5) 春季セミナーについて(増田委員)

日 時:4 月 13 日(土) 11:00~18:30 主に会議(理事会、各委員会等)

4 月 13 日(土) 18:30~20:30 懇親会

4 月 14 日(日) セミナー

大会長:大川 龍之介先生(東京医科歯科大学)

会 場:金沢市文化ホール

金沢ニューグランドホテル(コロナの状況許せば、懇親会開催予定)

内 容:「臨床検査のオープンイノベーション」

シンポジウム 1「産学連携で開く臨床検査」

シンポジウム 2「国際活動で開く臨床検査」

特別講演「病院検査部を中心とした産官学連携による、肝線維化マーカーであるオートタキシンなどの体外診断薬の臨床実装」

(国際医療福祉大学大学院長 矢富 裕先生)

教育講演「金沢大学発 ベンチャーキャピタル ヴィジョンインキュベーターと未来知実証センター」

(金沢大学副学長 松本 邦夫先生)

機器・試薬セミナー:10 社程度

機器・試薬展示